

保育計画成果報告書

法人名	一般財団法人 こども財団
施設名	リーゴ正保保育園
報告者（役職）	田中 佳子（園長）
住所・連絡先	名古屋市港区正保町3-5 2
	☎ 052-381-7555
	E-mail tanaka@kodomozaidan.com

○タイトル（保育計画）

園庭づくり～子どもたちの運動体験を保障する～

○主な助成備品

みどりのトンネル、築山、植栽

1. 保育計画策定の目的

リーゴ正保保育園は、平成27年4月に賃貸型認可保育園として開設しました。園庭整備に予算を回すことが出来ず、園庭は何もない状態でスタートしました。何もない事を嘆くのではなく、園庭全部が砂場として、子どもたちには「どこを掘ってもいいよ」と伝え、思う存分どろんこあそび・砂遊びを楽しめるようにしながら、草木を育てたり、野菜を育てることなど、出来ることからやっつけようと考えていました。ちょうどそこへ今回の機会をいただき、周辺の公園や散歩では得られない環境を園庭に作り、子どもたちに様々な運動体験や自然に触れる経験をたっぷり保障出来る園庭になることを目指しました。

2. 具体的な実施内容

①みどりのトンネル

アニメ『となりのトトロ』をイメージして作ったトンネルは、実際に人工的に作ろうとすると、かなり無理があり、当初考えていた幼児が少し腰をかがめて歩く位の高さのアーチにすることは出来ませんでした。また、実のなるツル系の植物を植えて、緑を目で楽しみ、実を食べて楽しみ、くぐって楽しむ・・・そんな思いを全て叶えることは出来ませんでした。それでも、マサキの木という低木を結び、アーチ型にして、みどりのトンネルは完成しました。園外では体験できない“そこに居るのはわかっているけれど、大人が必要以上に干渉しない秘密基地のような”絶好の『とどまる場』が出来ました。



②築山

築山もイメージより斜面は緩いものにはなりましたが、乳児がのんびりと斜面をハイハイで登ったり、バランスを取りながら斜面を降りてきます。そこは乳児たちの『挑戦する場』になっています。その乳児のゆっくりとした動線を縫う様に幼児がその周りを走り回る姿は、まさしく保育園の園児のたくましさと身体のバランスの良さを感じます。そして、ここは保育園の園庭ならではの『走り回る場』になりました。



③植栽

『子どもたちが木登り出来る木をシンボルツリーにしたい！』これが当初の大きな願いでした。しかし、予算の関係でその願いは、“5年後に大きく育つ”シイの木に替わりました。それでも子どもたちはこちらの願いや意図を察するかのように、そのまだ細く、支える柱の方が太いのではないかというシイの木に一生懸命ぶら下がり、登ろうとします。そして、毎日その木の周りには子どもたちが自然と集まっています。そして、いろいろなあそびが展開されていく様子に、今はか細い木だけれど、このシイの木は年々この保育園の子どもたちを見守り、支えてくれる木になっていく（もうすでになっている）のだろうと感じずにはいられません。そう思うとこの木の存在は『集団で遊ぶ場』であり、『安心の場』になっているのだろうと思います。また、ヤマモモやブラックベリー、ジューンベリーの実のなる木の植栽によって、楽しみも増え、保護者さんたちが、『この実は食べれるのかな？』と数人が木の周りに集まって会話が弾んでいることもありました。こうしてこれらは子どもだけでなく保護者さんたちの『交流の場』にもなりました。



3. その成果と評価

「園庭で遊ぶのが楽しい！」という子どもたちの声と共に、「園庭での子どもたちの遊びの広がりが面白い！」という保育者の声に、本当にいい園庭づくりが出来たのだと実感しています。それぞれの空間は、園庭での様々な運動体験を経験できるようにという思いでスタートしていますが、子どもたちから発信されるあそびには、『子どもはあそびの天才！』と思わずにはいられない姿がいっぱいです。

夕方のお迎え時間は、「ママ見ててね～」とお母さんたちを待たせて、みどりのトンネルをくぐり、築山の周りを走るコースを何度もぐるぐる回る子どもたちの姿が多く見られます。その姿は『わたしの保育園の園庭素敵でしょう～?!』と言っているかの様です。

多くの木を植栽したことで、子どもたちの砂遊びにも変化が見られました。実や葉っぱを飾ってデコレーションしたり、葉っぱをちぎってたくさん並べて楽しむ姿もあります。栄養のある土に入れ替えたことで、四季折々の変化もありました。生えてきたクローバーの密群から保育者も含めた四葉のクローバー探しが盛り上がりったり、梅雨の時期には、不思議なキノコが生え、「これ食べられるのかな?」「なんていう名前のキノコかな?」とみんな観察しました。



築山の芝生は、夏は緑の芝に座るとチクチクする感覚を楽しむ姿や、芝の上に寝転がり、空を見上げている子どもの様子に保育者も「何が見える?」「気持ちがいいね～」と会話している様子は本当に感動的でした。そして、冬になると枯草になった芝が体に付くことが面白くて楽しくて、築山の斜面をころころ転がる子どもたちの姿に、「お洗濯が大変になっちゃうな～ママ達、ごめんなさい!」と思いつつも、子どもたちの嬉しそうな姿をそのまま見守ることにしました。すると、その繰り返しのいつの間にか、芝山ははげ山になってしまいました・・・(笑) 今は、春にちゃんと緑の芝が生えてくれることをただただ祈るばかりです。

みどりのトンネルは、トンネルとして走って通る以外にも子どもたちの隠れ家にもなっています。トンネルの中と外で顔を覗かせたり、中でのんびりと葉っぱを観察する子もい

ます。何やらこの空間の時間はそこで遊ぶ子の遊び方によって、ゆっくり流れていたり、スピード感があつたりと不思議な時間の流れがあるように感じます。

季節を肌で感じられ、子どもたちの遊びを夢中にさせるこの魅力的な園庭は、我が保育園の一番の自慢になりました。

4. 今後の課題と展望

今回の第一生命財団の助成で完成した我が保育園の自慢の園庭ですが、今後はさらに園庭を緑でいっぱいになりたいと思っています。毎年、卒園記念樹を卒園式で植樹していくことにしました。昨年度はキンモクセイを植えました。今年はみかんの木を植える予定です。保護者会の役員さんにこの計画の話をしたら、「先生、保育園を森にするつもり?!」とびっくりされましたが、実は、そんなつもりです! 園の周辺は中小の町工場と民家が立ち並ぶ緑の少ない環境です。是非とも保育園が地域の緑のオアシスにもなっていけたらと思っています。



以上